

「過越の食事の準備」

- (1) 「ユダの裏切り」 マコ 14 : 10~11、マタ 26 : 14~16、ルカ 22 : 3~6
(2) 「過越の食事の準備」 マコ 14 : 12~16、マタ 26 : 17~19、ルカ 22 : 7~13
(朗読箇所 マタ 26 : 14~16、ルカ 22 : 7~13)

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① 「オリーブ山での説教」が終わると、イエスは十字架の死を予告した。
② その日の夕に、ベタニヤで晩餐会が開かれた。
③ 火曜日が終わり、日没後は水曜日となった。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 142 ユダはイエスを売り渡すために祭司長たちのところに行く

マコ 14 : 10~11、マタ 26 : 14~16、ルカ 22 : 3~6

§ 143 弟子たちによる過越の食事の準備

マコ 14 : 12~16、マタ 26 : 17~19、ルカ 22 : 7~13

2. アウトライン

(1) ユダの裏切り (マタ 26 : 14~16)

- ① ユダの役割 (14~15a 節)
② 銀貨 30 枚の意味 (15 b ~16 節)

(2) 過越の食事の準備 (ルカ 22 : 7~13)

- ① 当時の習慣
② イエスの指示 (7~12 節)
③ 弟子たちによる食事の準備 (13 節)

3. 結論 :

- (1) マリアとユダの対比
(2) イエスの決意
(3) 二階の大広間

過越の祭りを背景として、イエスが神の小羊であることを学ぶ。

I. ユダの裏切り (マタ 26 : 14~16)

1. ユダの役割 (14~15a 節)

Mat 26:14 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテ・ユダという者が、祭司長たちの

ところへ行って、

Mat 26:15a こう言った。「彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか。」

- (1) ユダは、ベタニヤのシモンの家での晩餐から姿を消した。
 - ①時は、火曜日の夜(水曜日になっている)である。
 - ②イエスは、マリアの行為を批判する弟子たちを叱責した。
 - ③ユダは、自分の動機が悪いので、叱責の言葉に衝撃を感じた。

(2) ルカ 22:3 とヨハ 13:27

Luk 22:3 さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。

Joh 13:27 彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼に入った。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」

- ①サタンがユダに入ったタイミングはいつか。
- ②サタンの介入が段階を追って強くなったということか。
- ③いずれにしても、イエスの十字架の死にはサタンの関与があった。
- ④神は、サタンの悪行をご自身の計画のためにお用いになった。
- ⑤ユダの神は、お金であった。
- ⑥彼は、「悪霊憑き」ではなく、「悪魔憑き」である。

(3) 祭司長たちとの面会は、通常は不可能である。

- ①祭司長たちにとっては、内部通報者が出たのは朗報である。
- ②ユダは、彼らにとっては祈りの答えであった。

(4) ユダと祭司長たちの契約内容は、3つの条項を含む。

- ①イエスの居場所を教え、群衆から隠れた所で逮捕されるようにする。
*これは実現した。
- ②コホート(約600人の歩兵隊)を派遣するための証人となる。
*ローマ法では、総督の前で反逆者の逮捕を直訴する必要がある。
*これも実現した。
- ③ローマ法廷で原告側の証人となる。
*宗教裁判では、この役割は必要なかった。
*これは実現しなかった。

2. 銀貨30枚の意味(15b~16節)

Mat 26:15b すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。

Mat 26:16 そのときから、彼はイエスを引き渡す機会をねらっていた。

(1) 銀貨30枚の支払いをもって、契約は完了した。

- ①この額は、すぐに支払われた。
- ②ユダは、希望のものを手に入れた。
- ③今度は、彼が責任を果たす番である。

(2) 出21:32

「もしその牛が、男奴隷、あるいは女奴隷を突いたなら、牛の持ち主はその奴隷の主人に銀貨三十シケルを支払い、その牛は石で打ち殺されなければならない」

- ①銀貨30枚は、死んだ奴隷の命への弁済金である。
- ②ユダヤ文化の中では、銀貨30枚は軽蔑の象徴である。
- ③30という数字は、忌むべき数字である。

*キリスト教圏の13という数字、日本の4という数字

(3) ゼカ11:12~13

「私は彼らに言った。『あなたがたがよいと思うなら、私に賃金を払いなさい。もし、そうでないなら、やめなさい。』すると彼らは、私の賃金として、銀三十シケルを量った。【主】は私に仰せられた。『彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に投げ与えよ。』そこで、私は銀三十を取り、それを【主】の宮の陶器師に投げ与えた」

- ①良き羊飼いに支払われた賃金は、銀30シケル。無給よりも侮辱的である。
- ②良き羊飼いの価値は、銀30枚である。
- ③ゼカリヤはこれを陶器師に投げ与えた。最下層の仕事。
- ④この預言は、イスカリオテのユダにおいて成就した。

(4) 銀貨30枚は神殿の金庫から取られた。

- ①神殿の金庫の金の主な用途は、いけにえの動物を買うことである。
- ②この日、祭司長たちは、究極的な意味でそれを実行した。

(5) これで火曜日が終わった。

- ①水曜日は休息の日。
- ②木曜日は過越の食事の準備の日。
- ③金曜日は祭りの当日。

*イエスの十字架刑は、金曜日に行われた。

*通常の日にはちの認識とユダヤ的認識が異なることが、混乱の原因となる。

II. 過越の食事の準備 (ルカ 22:7~13)

1. 当時の習慣

- (1) 過越の小羊を神殿に運び、そこで傷やしみがなく吟味される。
 - ① イエスは、4日間にわたりユダヤ人の指導者たちの吟味を受けた。
- (2) 小羊は神殿域でほふられ、鉢で受けた血が祭壇の土台の部分に注がれる。
 - ① レビ人たちが、長い列を3つ作り、手渡しでその血を運ぶ。
 - ② 以上のことは、午後3時から6時にかけて行われた。
- (3) 小羊は捌かれ、過越の食事の食材として家に持ち運ばれた。
 - ① 祭壇で焼かれる部分は取り除かれる。
- (4) それ以外の食材が用意される。
 - ① 種なしパン、苦菜、ぶどう酒など

2. イエスの指示 (7~12節)

Luk 22:7 さて、過越の小羊のほふられる、種なしパンの日が来た。

Luk 22:8 イエスは、こう言ってペテロとヨハネを遣わされた。「わたしたちの過越の食事ができるように、準備をしに行きなさい。」

Luk 22:9 彼らはイエスに言った。「どこに準備しましょうか。」

Luk 22:10 イエスは言われた。「町に入ると、水がめを運んでいる男に会うから、その人が入る家にまでついて行きなさい。」

Luk 22:11 そして、その家の主人に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っておられる』と言いなさい。

Luk 22:12 すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこで準備をしなさい。」

- (1) 「種なしパンの日」とは、過越の祭りを含めた8日間のことである。
 - ① その間、エルサレム周辺に、広大なテント村ができた。
 - ② 町は混雑しており、町の中で食事する場所を見つけるのは容易ではなかった。
 - ③ 巡礼者たちは、テントの中で過越の食事をした。
 - ④ 弟子たちは、どこで過越の食事をするか悩んでいたはずである。
- (2) イエスは町の中で過越の食事をしようとされた。
 - ① ペテロとヨハネにその準備を命じた。イエスは、場所を指定された。

- ②事前に言わなかったのは、ユダに知らせないためである。
- ③水がめを運ぶ男は珍しいので、すぐに見つかる。
 - * 当時は、女性が水がめを運んだ。
- ④その人が入る家までついて行く。
- ⑤その家の主人は、イエスを信じる信者であろう。
- ⑥「弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っておられる」と言えばよい。
- ⑦その家の主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれる。
 - * 大きなゲストルームである。
 - * 建物の脇に二階に上る階段が付いている。
 - * このような構造は、裕福な家だけの特徴である。

3. 弟子たちによる食事の準備 (13 節)

Luk 22:13 彼らが出かけて見ると、イエスの言われたとおりであった。それで、彼らは過越の食事の用意をした。

- (1) イエスは、小さなスケールの奇跡を行っておられる。
 - ① 予知能力
- (2) ペテロとヨハネは、当時の習慣に従って食事の準備をした。
 - ① 席順が気になったはずである。

結論：

1. マリアとユダの対比

- (1) マリアは、300 デナリの香油をイエスに注いだ。
 - ① イエスの埋葬の準備をした。
 - ② 彼女は、イエスにはこれ以上の価値があると認めていた。
- (2) ユダは、銀貨 30 枚でイエスを売り渡した。
 - ① これは死んだ奴隷の価値であった。
 - ② 祭司長たちは、意図的に侮辱的な額を提示した。
 - ③ ユダは、イエスの価値をその程度に見積りした。

2. イエスの決意

- (1) **マタ 26:18**

Mat 26:18 イエスは言われた。「都に入って、これこれの人のところに行って、『先生が「わ

たしの時が近づいた。わたしの弟子たちといっしょに、あなたのところで過越を守ろう」と言
っておられる』と言いなさい。」

(2) 「わたしの時が近づいた」

- ①イエスは、ベツレヘムの洞窟で誕生して以来、この時のために生きて来られた。
- ②イエスは、自分の運命を理解し受容した上で、最後の奉仕をしようとしている。

(3) 「わたしの弟子たちといっしょに」

- ①この過越の祭りこそ、メシアの死の預言が成就する過越の祭りとなる。
- ②そこに弟子たちが同席する。
 - *最低10人の家族としての単位が必要である。
 - *イエスと弟子たちは、その家族単位を形成する。
- ③「あなたのところで過越を守ろう」
 - *この家の主人の献身的な信仰は、神に大いに祝された。

3. 二階の大広間

(1) ペテロとヨハネは、「客間はどこですか」とたずねた。

- ①ギリシア語で「kataluma」である。
- ②裕福な家には、二階に客間があった。

(2) ふたりが案内されたのは、「二階の大広間」であった。

- ①ギリシア語で「anogeon」である。
- ②席が整っている二階の大広間であった。
- ③弟子たちが期待した以上のものが用意されていた。

(3) ルカ2:6~7

Luk 2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、

Luk 2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

- ①宿屋は、「kataluma」である。
- ②イエスは、誕生の時には、客間さえ与えられなかった。
- ③最後の晩餐では、二階の大広間が用意された。

(4) ベタニヤのマリアに続く信仰者とは誰か。

- ①教会の伝承では、ここはヨハネ・マルコの両親の家である。
- ②使1章の集まりは、この場所で開かれた。